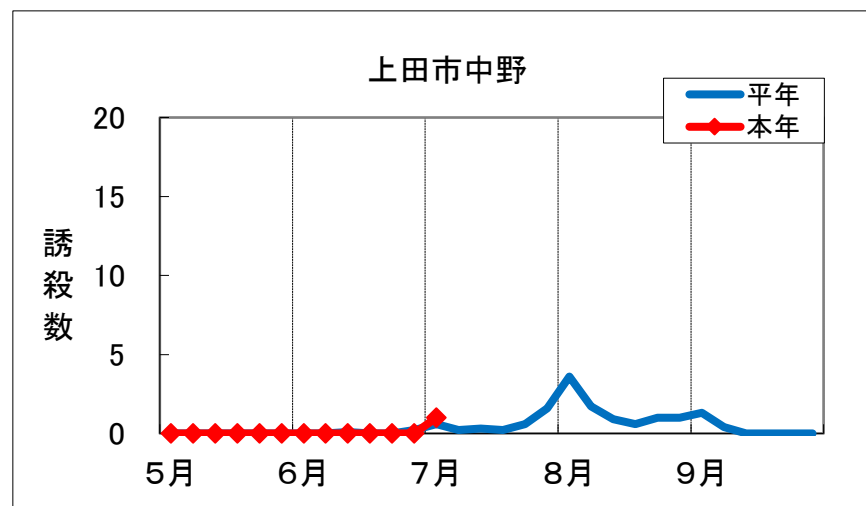


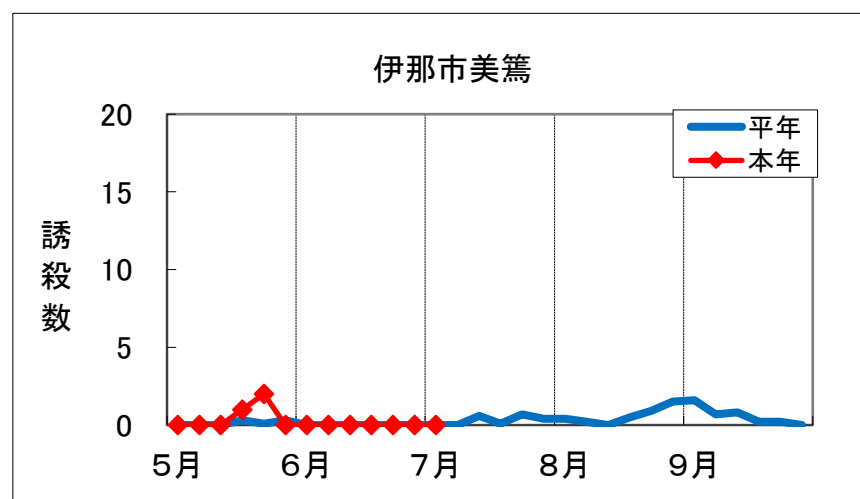
予察灯によるフタオビコヤガ(イネアオムシ)の誘殺消長

【令和7年・(2025年)】

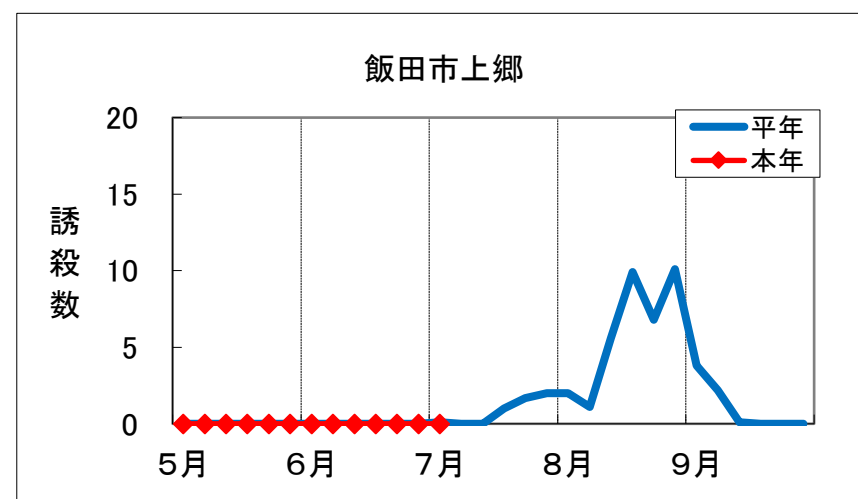


※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均

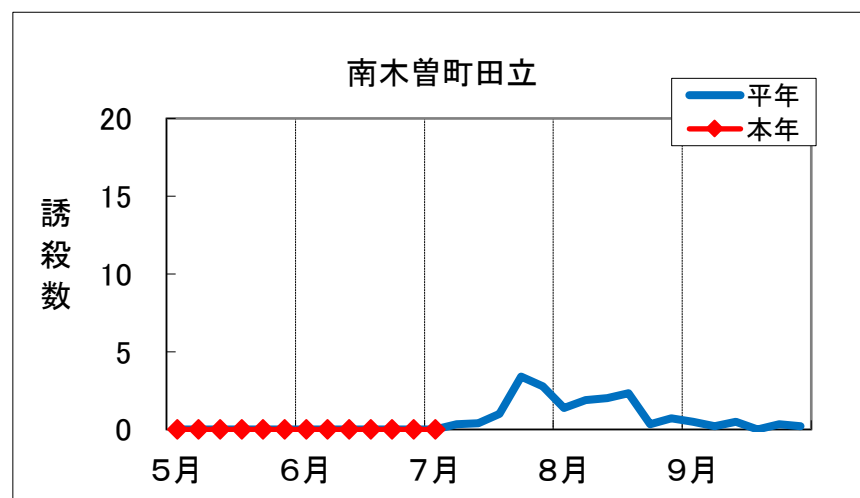
- ・上田市では、7月第1半旬に1頭初誘殺されました。
- ・伊那市では、5月第4半旬に1頭初誘殺され、その後5月第5半旬に2頭誘殺されましたが、以降誘殺はありませんでした。
- ・安曇野市では、5月第3半旬に1頭初誘殺され、その後誘殺はありませんでした。(5月第5半旬及び第6半旬、6月第6半旬、7月第1半旬は予察灯の電球切れのため欠調)
- ・その他の地点では、今のところ、誘殺されていません。



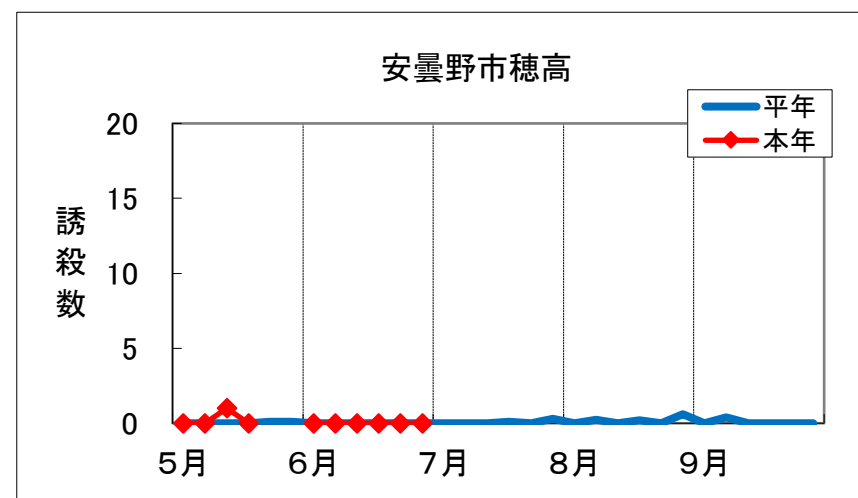
※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均



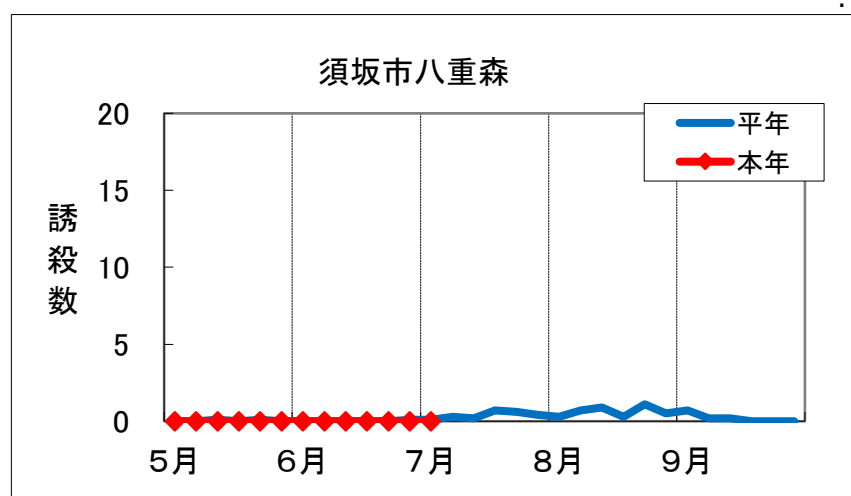
※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均



※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均



※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均



※平年:平成27年～令和6年(10年間)の平均

(参考)

1 発生生態

本県におけるフタオビコヤガ(イネアオムシ)の発生は、年3回が一般的です。標高の高い地域や、低温の年に発生が多くなります。蛹で越冬し、5月下旬に第1回成虫(越冬世代)が発生します。第1世代幼虫は6月中下旬に発生し、イネの葉を葉縁から台形に食害します。

上のグラフは予察灯で捕獲された成虫数です。

2 防除時期

平年の第1世代幼虫の防除は6月中下旬頃、第2世代幼虫の防除は7月中旬頃、第3世代(越冬世代)幼虫の防除は8月上旬頃です。